

こおろぎ

発行日 2005年6月1日 **No.148**
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
代表取締役：杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp
URL <http://www.origin-co.com>

サクセス・ストーリー

私の家は、私が小学校を卒業するまでに12回引越しをしました。そのためほとんど友達が出来ず、寂しい幼少期を過ごしました。しかし、そのおかげで友達を作ることが下手な人の気持ちが少し分かる人間になれた気がします。

また、父が病気で倒れたため、私は社員ゼロの借金だらけの会社を継ぐことになりました。そのおかげで、経営を真剣に学ぶことが出来ました。もしゆとりがあったら、私は真剣に経営を学ばなかったと思います。

私が会社を継いだころ、私の会社には銀行が融資をしてくれませんでした。そのおかげで借り入れをしない体質の会社を作ることが出来ました。もし銀行が簡単にお金を貸してくれていたなら、安易に借金をする体質になっていたかもしれません。

当時は、他の会社では勤まらない人や、問題を抱えた人しか私の会社に入社してくれませんでした。そのおかげで、そうした人たちを生かす経営の仕方考えることが出来ました。

それでもなかなか社員が定着せず、寂しい思いをしたものです。そのおかげで、「社員が辞めない会社を作りたい」と真剣に思うようになりました。

こうして私の人生を振り返ってみると、私が手にしたものの全ては、当時「マイナス」と思えたことから生まれたものばかりです。

私たちは、自分の身に何かが起こると、「プラスの出来事」「マイナスの出来事」と決めてしまいがちですが、私はそうした考え方は、もったいない考え方だと思っています。私は自分の体験から、いかに大きなマイナスと思える出来事も、使い方一つで大きなプラスになると思っているのです。

私にとってあれほど忌まわしかった成績表も、講演のときに生徒たちに配ると、彼らはとても励まされるようですし、学生時代に多少ぐれたとしても、その体験を生かして教師になれば「ツッパリ先生」です。今、「こおろぎ」の読者の中にも、何らかの問題を抱えて元気をなくしている人がいるかもしれませんが、その辛さや、悲しみを人に生かせば、大きなプラス（魅力）となるのです。

こうした生き方こそ、サクセス・ストーリーだと私は思っています。辛い思いをした分、是非、元をとりましょう！！

京丸園で働いて三年が経とうとしています。朝は早く、夜も遅く、大変だと思うことが多いのですが、一番問題なのは具体的に夢を持たなくて、ただ漠然と仕事をしていることが問題であると思いました。

働く時間が長いのであれば、具体的に何時までに仕事を終わらせた方がいいのか？ そうするためにはどのように仕事をやっていけばいいのかを考えなくてはいいかと思いましたが、夢を実現する方法を生かして、自分一人で悩まず、周りをとりこんで夢を実現したいと思いました。

杉井さんと出会って八年目に入ります。部屋に閉じこもっていた八年前からは信じられないことですが、一人で海外旅行に行けたり、親孝行が出来たり、付き合ってくれる女性が出来たりしています。こうなれたのはなぜかを考えてみると、周りにいた方達が私を支え、応援してくれたこと、自分自身が「こうしたい」という願いを持てたことが大きかったと、今日のお話を聞きながら実感しました。今、自分の夢に向かうためにも、今日の「夢を実現する方法」を胸にきざんで生活していこうと思います。

本当の勝利

私たち経営者は、いろいろな方と交渉をすることがあります。私などは、つい自分の意見を通したいと思いがちですが、果たして自分の意見が通ったら「勝利」なのでしょうか？ 人との交渉において、「本当の勝利」があるとしたら、それはどんなものなのでしょうか？

自分一人の力で生きていると思っている人にとっては、自分の意見が通れば、それが「勝利」かもしれません。しかし、私のように、人は人に応援してもらう以外に生きていく方法はないと考えている人にとっては、そうは思えません。人によっては、「今回、全て相手の意見を通す代わりに、二度とこの人とは付き合わないぞ！」と決心する人もいます。それでは、たとえ自分の意見が通ったとしても、「負け」だと思ってしまうのです。

社員さんや子どもを指導するとき、その場では言うことを聞いてくれても、反発心を強めたり、仕返しの種を植え付けたりしているかもしれません。そこまでいかないまでも、頑張ろうと思わなくなるかもしれません。それは、「本当の勝利」ではないと思うのです。

時々、経営者と社員さん、親と子が対等に言い合うシーンを見かけますが、私はその時点で、経営者や親の負けだと感じています。部下や子どもからその存在を認められていたら、対等の言い合いになどならないと思うのです。

こうしたことを踏まえて、「勝利」をランク付けすると、
本当の勝利・・・こちらの意見が通って、相手との関係が深まる。
最低限の勝利・・・こちらの意見を譲って、相手との関係が強くなる。
危険な勝利・・・こちらの意見は通るが、相手との関係が悪くなる。
うわべの勝利・・・こちらの意見を譲っても、関係が深まらない。
本当の負け・・・こちらの意見も通らず、相手との関係も悪くなる。
となります。

私は、人と何かを折衝するとき、「本当の勝利」を狙って話をしていますが、最低でも「最低限の勝利」を確保したいと思っています。皆さんは、どんな基準をもって交渉に臨んでいるのでしょうか？

最近では、部下や子どもとキチンと向かい合わず「うわべの勝利」ばかりをとる大人や、今、自分の意見を通すことばかりを「勝利」と考える大人が増えてきている気がします。相手との関係が深まらなくては「本当の勝利」ではないと思うのです。

皆さんはどう思われるのでしょうか？

便教会のご案内

実際に教壇に立ってみると、子どもたちの生気のなさに驚かされることがあります。しかし、先月号の「事故の教訓」でも書いたように、学校や先生方をただ批評していても何も変わらないどころか、やる気のある先生方も萎縮させて、良い関係が出来にくくなってしまおうと思います。

私たちは、毎月、学校のトイレ掃除をしています。自分の手で、学校を良くしよう」と、休日返上でトイレ掃除に参加されている先生方が何人もいます。

どれだけの人が、休日に職場のトイレ掃除に行くのでしょうか？

そうした先生方が全国から集まり、8月6日～7日に、島田市立島田第四小学校で、「便教会」を行います。しかし、良い教育を作るのは、親、教師、子どもの共同作業だと思っています。

お忙しいとは思いますが、是非、是非、皆さんの力をお貸しください！ 汚いところに手を出さない人が何人集まっても、世の中は何一つ変わらないと思います。